

# 地盤環境コンサルティング

## ～ 土壌・地下水汚染リスクの低減に向けて～

環境省 指定調査機関 指定番号(環 2003-1-657)



### 土壌・地下水汚染リスクの効率的な低減

21世紀は環境の時代と言われます。土壌・地下水汚染問題は身近な環境問題です。

平成15年2月には土壌汚染対策法が施行され、「不動産鑑定評価基準」や「宅地建物取引業法」においても土壌汚染等の把握が明記されています。また、都道府県条例では規制の強化が図られつつあります。このような背景から土壌汚染問題は、私たちの社会経済活動に大きな影響を与えつつあります。

私どもはお客様のニーズに合わせて、土壌・地下水汚染のリスク低減を行います。

### 調査の流れ

土壌・地下水汚染のリスクを低減させるために必要な各種調査、化学分析を行い、汚染の有無を判定します。万一、汚染が確認された場合には、リスクを低減させるために必要な詳細調査を実施し、汚染物質の種類、汚染の程度・範囲を明確にした上で、必要な汚染修復方法を立案し、実行します。

#### 資料等調査

- ・土壌汚染リスクの可能性を推定
- ・土壌汚染範囲の概略想定
- ・汚染状況調査項目の決定

過去の土地履歴や既存資料から土壌汚染リスクの可能性を調べます。また、お客様のニーズに合わせて簡易判定等も行えます。土壌汚染リスクの可能性がある場合には、汚染状況調査の計画立案を提案します。

#### 汚染状況調査

- ・土壌汚染の有無の確認
- ・汚染の平面範囲の把握
- ・汚染物質の特定

資料等調査の結果に基づき、表層土壌の汚染状況調査を実施し、土壌汚染の有無の確認、土壌汚染の平面範囲の把握、汚染物質の特定を行います。

##### 第1種特定有害物質

(揮発性有機化合物)

土壌ガス調査、土壌溶出量調査

##### 第2種特定有害物質(重金属等)

土壌溶出量調査及び  
土壌含有量調査

##### 第3種特定有害物質(農薬等)

土壌溶出量調査



表層土壌採取



土壌ガス採取

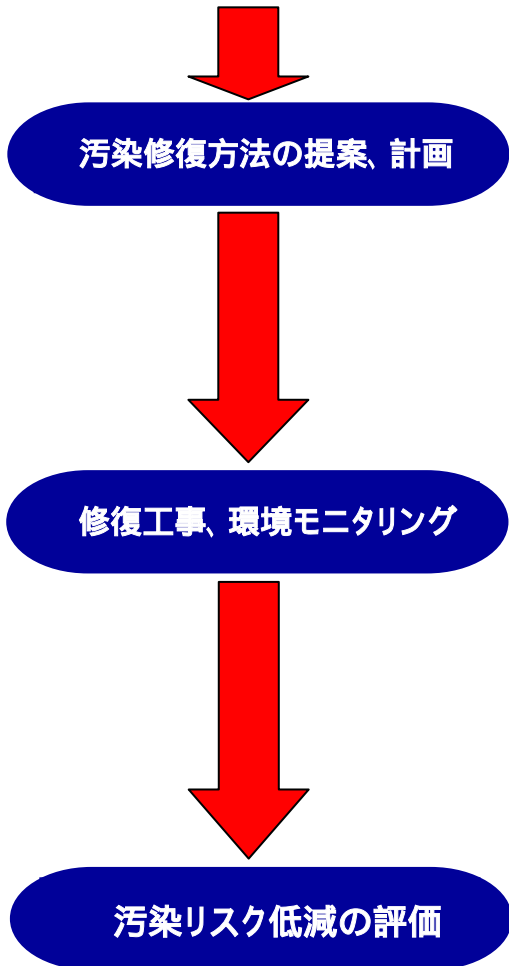


土壌試料採取

#### 詳細調査

- ・深さ方向の土壌汚染範囲の特定
- ・地下水汚染の把握
- ・地盤状況の把握

ボーリングにより土壌汚染の深さ方向を調査します。土壌汚染状況により地下水の汚染状況を調査します。また、汚染修復のために必要となる地盤調査も実施します。



詳細調査の結果、汚染の状況、地盤状況・土地利用計画に適した最も経済的な土壌・地下水汚染修復方法を提案します。汚染修復工事の計画を行い、行政、地元への事前説明等のサポートを行います。

お客様に代わって、当社が修復工事の着手から、完了まで一貫したマネージメントを行います。また、修復工事に伴う環境変化をモニタリングし、周辺環境に悪影響を及ぼさないように修復工事を監理します。



汚染修復工事の例

**汚染リスク低減方法**  
 盛土・覆土等、土壌入れ換え、原位置封じ込め、遮水工封じ込め、遮断工封じ込め、原位置不溶化、不溶化埋め戻し、原位置浄化、掘削除去 等



モニタリング例

汚染修復工事による汚染リスク低減を確認し、行政、地元への完了報告をサポートします。

**業務実績**  
 土壌・地下水汚染のリスクを低減させるため、資料等調査をはじめとした土壌・地下水汚染調査、修復及びモニタリング等の広範囲にわたり実績を積み重ねてきました。これらの実績を踏まえ、今後もお客様のニーズや状況に合わせた迅速で確かなコンサルティングを行います。

**土壌汚染地評価サポート**  
 (株)アースアプレイザルとの業務提携により、土壌汚染による不動産減価計算システム(ONDES)を導入し、土壌汚染可能性評価サポートを提供します。  
 フェーズ 0.3 レベルの土壌汚染リスク簡易判定では、10 万円の費用で土壌汚染リスクの可能性判定及び不動産減価計算をレポートします。裁判所の競売物件を対象にしたフェーズ 0.8 レベルの土壌汚染可能性評価では、20 万円の費用で現地調査及び既往資料から土壌汚染のリスク可能性を評価するとともに、不動産減価計算をレポートします。

